

京都大学瀬戸臨海実験所構内に2009年に出現した クロマダラソテツシジミ (シジミチョウ科)

Occurrence of *Chilades pandava* (Horsfield) (Lycaenidae) in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University at Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan in 2009

久保田 信¹・田中昭太郎²

- 1 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
2 〒649-2323 西牟婁郡白浜町庄川541

熱帯・亜熱帯性のクロマダラソテツシジミ *Chilades pandava* (Horsfield, 1829)は、本来はフィリピンから台湾にかけて生息し、ソテツの若葉を餌とする害虫として知られるシジミチョウの一種で、日本へは迷蝶として知られた希少種であった(酒木ほか, 2008; 谷角, 2008)。ところが、前世紀末頃より南西諸島で比較的多数が発見されて以来、2007年に鹿児島県での発生を皮切りに、近畿地方の各地でも発見されるようになった(酒木ほか, 2008; 小島, 2009)。和歌山県下でも2008年以降に和歌山市から太地町までの広い範囲で報告されている(小島, 2009; 吉村, 2009; 小島・的場, 2009)。

今回、2009年10月初旬から中旬にかけて、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内の3箇所(宿泊棟、水族館入り口付近、研究棟入り口)に植えられているソテツ13本の周辺で、日差しが暖かい昼間に本種の生息状況の調査を実施した。その結果、研究棟正面入り口の両側に植わった計4本のソテツ付近を、クロマダラソテツシジミの数頭の成虫が飛び交い、葉のあちこちに何度も止まるのを目撃した(図1)。また、正面玄関の東側の1本のソテツの葉のいくつかに、本種の幼虫の古い食痕がわずかだが確認された。以上の観察は、構内からの本種の初記録としての報告となる。しかも食痕があったので、すでに成虫が産卵し、その後に誕生した幼虫もいたはずである。



図1. 京都大学瀬戸臨海実験所構内研究棟入り口に植えられたソテツの葉に止まったクロマダラソテツシジミの雌成虫(2009年10月11日撮影)。

田中は、特に和歌山県中南部地域での本種の分布調査を2008年より実施しているが(田中, 未発表)、白浜町においても諸所に植えられているソテツには本種の成虫が群飛し、かなり被害を受けたソテツも確認されており、町全体に分布が拡大しているのを確認している。田中と共に久保田も実験所のすぐ近くの円月島を眺望する観光スポットで、植えられているいくつかのソテツに多大な食痕が見られたのを確認した。今後は、構内はもとより、実験所付近や県内各地での越冬が可能かどうか、本種の個体数の増

減がどのように変化してゆくのか，冬季の温度変化の記録などとあわせた調査が必要である．

引用文献

酒木敬司・横田 靖・山本 治・平井規央・石井 実. 2008. 大阪府池田市でクロマダランテツシジミの発生を確認. 月刊むし, (444): 2-4.

小島和也. 2009. クロマダランテツシジミ 2008 年に和歌山県内でも発生. KINOKUNI, (75): 7.
小島和也・的場 績. 2009. クロマダランテツシジミの 2009 年発生状況. KINOKUNI, (76): 20.
谷角素彦. 2008. 謎の蝶, クロマダランテツシジミ (今月の表紙). 月刊むし, (444): 4.
吉村輔倫. 2009. 有田地方のクロマダランテツシジミ. KINOKUNI, (76): 19-20.